

【群馬県を取り巻く環境】

<p>人口減少社会の到来</p> <ul style="list-style-type: none"> 群馬県の人口は、2035年には2005年に比べて約16%減少し、約170万人に。(図1)
<p>厳しい財政状況</p> <ul style="list-style-type: none"> 2008年度末の群馬県の県債残高(借金)は9,751億円(見込)で、県民一人当たり約48万円に。 急激な景気後退による企業業績等の悪化により、2009年度の県税収入は前年度比41.5億(約16%)減収。
<p>北関東自動車道の開通など高速道路網・新幹線網整備の進展(図2)</p> <ul style="list-style-type: none"> 北関東自動車道は、群馬・栃木・茨城3県の主要都市と国際港の常陸那珂港を結び、東京から放射状に伸びる関越道・東北道・常磐道とも接続。北関東地域に新たな経済圏の形成が可能に。
<p>地方分権の進展と道州制導入の動き</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域の特色を生かした行政運営、行財政改革の実施による簡素で効率的・効果的な行政体制確立の要請。 政府の「道州制ビジョン懇談会」は、2018年までの道州制への完全移行を提言。

【群馬県の特徴】

<p>恵まれた立地条件</p> <ul style="list-style-type: none"> 東京都心から100km圏内 群馬県は、日本列島の中央部に位置し、北関東自動車道の開通により日本の東西南北の結節点(東北~中部・関西、太平洋~日本海)として、交通の要衝地・物流の拠点に。 自然災害が比較的少ない安全な県土
<p>豊かな自然・水・温泉と文化的資源</p> <ul style="list-style-type: none"> 尾瀬・利根川・上州の山々などの自然、おいしい水、伊香保・水上・草津温泉 など 世界遺産登録を目指す富岡製糸場と絹産業遺産群、日本のオーケストラで二番目に長い歴史を持つ群馬交響楽団 など
<p>ものづくり立県</p> <ul style="list-style-type: none"> 群馬県は、県内総生産額に占める製造業の割合が、32.8%で全国5位(2005年度県民経済計算より)であり、内陸の工業県として、ものづくりのウエイトが高い。 電気機器や輸送機器といった加工組立産業を支える基盤技術産業が集積しているのが特色。 企業立地件数は全国トップクラス(平成19年の県内工場立地件数は98件で全国2位)
<p>分散型の都市構造</p> <ul style="list-style-type: none"> 県庁所在地の人口集中度が全国41位(平成17年国勢調査より)と、突出した都市が無く、前橋市のほか中心都市(高崎、伊勢崎、太田など)が多極的に分布する分散型の県土構造。 人口千人当たりの自動車保有台数が全国1位の車社会になっており、郊外型のロードサイド店舗が発達。

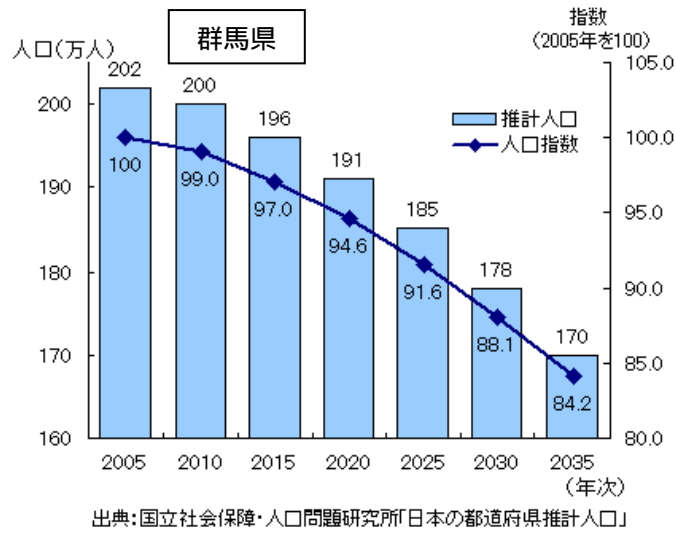
現状分析

<p>《機会》</p> <ul style="list-style-type: none"> 高速道路網・新幹線網整備の進展(北関東自動車道、北陸新幹線) 広域的な交流・物流の拡大 若者や団塊の世代によるふるさと回帰の動き 地方分権の進展、道州制導入の動き 	<p>《脅威》</p> <ul style="list-style-type: none"> 人口減少社会 厳しい財政状況 国内外との競争の激化 格差の拡大 環境悪化(地球温暖化) 急激な景気・雇用情勢の悪化
<p>《本県の強み》</p> <ul style="list-style-type: none"> 豊かな自然・水・温泉 東京から100km圏 災害の少ない安全な県土 個性豊かな地域文化(近代化遺産) ものづくり立県 多彩な農業 	<p>《本県の弱み》</p> <ul style="list-style-type: none"> 中心市街地の衰退 公共交通がぜい弱 海外との接点不足(空港・港) 郊外への人口分散 耕作放棄地の拡大

ぐんま新時代の県政運営方針 西部地域ビジョン(平成18年度~22年度)

- 地域の特性
- 交通の拠点、群馬県の玄関口
- 地域の将来像
- 県の玄関口、西上州の中心都市である高崎市においては、都市機能を一層高めることにより、・・・個性とにぎわいのあるまちを目指す。
- 重点施策「にぎわいのあるまちづくり」
- 核となる高崎市などの都市機能充実や中心市街地の活性化対策

< 図1: 将来人口 >



< 図2: 高速道路網・新幹線網整備の進展 >

